カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

新助祭を迎える喜び
3年ぶりの叙階式――「神に感謝」

3月20日（水）10時30分から浦上司教座聖堂で、中村倫明大司教の主司式、高見三明名誉大司教と約70人の司祭団の共同司式により助祭叙階式が行われた。

助祭に叙階されたのは、ボナベントゥラ洪燦基（ホン チャンギ）新助祭（浦上）＝写真中央。叙階式には祖国・韓国よりご家族やソサ小教区などから2人の司祭と信徒の皆さん約30人が来日、また、洪神学生がこの2年間司牧実習した福岡教区・久留米教会主任の宮崎保司師と信徒の皆さん、教区内外各地から多くの方々が集まり、長崎教区における3年ぶりの叙階式によって新助祭を迎える喜びを、感謝の祈りのうちに分かち合った。

叙階式ミサに先立ち、浦上教会主任の山村憲一師が教話を務めた。山村師は、助祭になる目的を「仕えるため」と表現し、次のように続けた。

「助祭はストラと呼ばれるものを右肩を開ける形で左肩からたすきがけに斜めに着用します。これは奉仕するにあたってストラが垂れて邪魔にならないよう、つまり助祭職が奉仕することに特化したものであることを表しているのです。（略）キリストの弟子として生きることは自分のためだけではなく、自分を通して誰かに神様からの恵みを届けることになるのです。それはまさに仕える者の生き方です」。そして、「助祭職を生きる者の模範はやはり主イエス・キリスト」だとし、「これから助祭職の恵みをいただく洪神学生が、自分の思いではなく御父の思いを生きることのできる恵みを祈り求めましょう」と語った。

ミサの中の助祭叙階の儀では、連願、大司教による受階者への按手の後、ストラと祭服の着用、そして大司教から聖書が手渡された。立ち上がり会衆席のほうを向いた洪新助祭に、参加者から大きな拍手が送られた。

ミサの終わりに紹介された洪助祭は、6年前に体ひとつで来日し、多くの方から支えられてきたことに触れて深い感謝を表し、「これまでいただいたこの恵みにどのようにこたえようかと昨夜ずっと考えました。ただ謙遜な姿勢で奉仕すること、優しい心で誰か必要とする方のそばに寄り添うこと、それではないかなと思っています。まだ足りないところもたくさんありますし、学ばなければならないこともたくさんあります。これからもお祈りをお願いいたします」とあいさつした。

最後に、中村大司教は参加者と奉仕者すべての方々に感謝の言葉を述べ、洪助祭が引き続き司祭職へ向かって養成されること、その養成拠点として福江教会に4月14日着任することを伝えた。

30人余の巡礼団となってバスで来崎した久留米教会からの参加者の一人田中聡美さんは、「2年間、教会学校の中学生を担当していただき、堅信式の指導もしていただいて、細やかに関わっていただきました。司祭になられるまで久留米教会の皆でお祈りしています」と話した。また、洪助祭の姉、洪英基（ヨンキ）さんは「（洪助祭が）自分一人で日本に行き、このように大勢の方々の祝福を受けて、うれしいことです」と語り、この日叙階式に参加できたことを喜んだ。

＊2枚目の写真は、姉・英基さんを祝福する洪助祭。

司祭叙階までの道のり

司祭職への歩みの最終的な4段階の第一は、キリストの死と復活を表すスータンとスルプリの着衣の助祭・司祭候補者認定式。これは志願者が司祭叙階を受ける決意と準備する決意を公に表すもの。

次に朗読奉仕者は教会の宣教に協力するのが任務であって、典礼集会で神のことばを朗読し、子どもや大人に教理を教え、秘跡にあずかる準備をさせる。

次の段階は祭壇奉仕者。信者が集まりいのちの源を見いだす感謝の祭儀で司祭や助祭の仕事に協力し、特別な場合には病人をも含めて信者に聖体を授ける務めを託される。

助祭は、神のことばと祭壇に奉仕し、愛のわざに励み、すべての人に仕えて司教と司祭団を助ける。キリストの霊を受けたしるしにストラを斜めにかける。これは奉仕を表す。またすべての人に福音を告げ知らせてよい勧めを与え、祈りを司式し、洗礼を授け、結婚に立ち会い、死に臨む人に聖体を授ける。

2025年 聖年に向けて

教皇フランシスコは1月21日、今年を、2025年聖年を準備する「祈りの年」とされ、その開始を宣言された。「祈りの年」は、その偉大な価値と、個人生活・教会・世界における祈りの絶対的必要を再発見することに捧げた1年である」と述べ、祈りを呼びかけられた。（バチカン・ニュース）

「日本カトリック神学院」設立認可

教皇庁福音宣教省は2024年3月7日、福岡カトリック神学院を閉校し、東京カトリック神学院（東京都練馬区）を、同じ場所で、「日本カトリック神学院」として改称して継続することを発表した。

祈りと支援の思い新たに
相浦教会で祭壇奉仕者選任式

穏やかな春の日差しのもと、トマ廣田 学神学生（鹿子前小教区）の祭壇奉仕者選任式が3月10日（日）午後2時から相浦教会で行われた。

通常ならば、選任式は浦上教会で行われるが、少しでも地域の信徒や子どもたちに参加してもらい、減少傾向にある召命を促進することに繋げたいとの願いを込めて、廣田神学生の出身地である佐世保地区で行われた。

選任式は、中村倫明大司教様の説教、祭壇奉仕者の役割についての教話、中心部分となるパンとカリスの授与（上の写真）が行われ、教会の奉仕者に選任された。式の最後に、佐世保地区からの花束贈呈と、村川昌彦主任司祭による力強い励ましの言葉、式後には境内で茶話会もあり、喜びを分かち合った。

選任式には、廣田神学生のご家族、鹿子前小教区の信徒を含む約200人が集まり、祈りをささげ、神様のお恵みに感謝をささげた。この式には神学生たちも一緒にいて、参加者は今後も神学生のために祈りと支援を続けていく思いを新たにした。

佐世保地区長　山内 実

信徒発見の聖母記念ミサ
助祭・司祭候補者認定式も行われる

3月17日（日）19時から大浦天主堂で「日本の信徒発見の聖母」の祝日を記念するミサがささげられた（長崎大司教区主催、長崎南地区評議会担当）。中村倫明大司教の主司式、高見三明名誉大司教と約30人の司祭団の共同司式により行われた。このミサには、各地から多くの信者たちが集い、合わせて200人を超える人々が共に祈った。

中村大司教は説教の中で、159年前の今日、浦上のキリシタンたちに出会ったプティジャン神父がその後、潜伏キリシタンの復活に尽力するとともに最初に着手したことが日本人の神学生を育てることだったと触れ、同じ年（1865年）の12月8日、天主堂横にある司祭館の屋根裏に養成の場所を設けたこと、カテドラルが大浦から浦上に移るまでここ大浦天主堂では多くの司祭の叙階式が行われてきたことを語った。

そして中村大司教は、「長崎教区はここしばらく叙階式だけでなく選任式や認定式も行うことができませんでした。今年になってようやく祭壇奉仕者の選任式が行われ（3月10日）、助祭叙階式を20日に控え、本日助祭・司祭候補者認定式を迎えることができました。信徒発見の後すぐに神学生養成が始められたことも今日確認しながら、あらためて私たちは、宣教司牧者を絶やすことがないように、これからも子どもたちや若者たちに声をかけ、関わっていくことをこの場で約束しましょう。日本、長崎の宣教司牧にいそしむことができますように、日本の信徒発見の聖母マリア様に取り次ぎを願って、このミサを共にささげていきたいと思います」と話した。

ミサの中では長崎教区の助祭・司祭候補者認定式も行われ、森翔真神学生が候補者として公式に認められた。森神学生の出身、太田尾教会からは主任司祭と15人の方々も参加し、皆で感謝と喜びを分かち合った。

幼い子どもたちを連れ家族一緒に初めて信徒発見のミサに参加したという男性信徒は、「認定式も初めてでした。（手をつないだご子息に目を向けて）この子にも召命があったらいいですね。娘にも」と話していた。

ほしかげ

井持浦教会にルルドが創設されて、今年2024年で125周年。5月12日には井持浦ルルド祭125周年が中村大司教司式で記念される▼井持浦ルルドは五島の司牧を任せられたパリ外国宣教会のペルー師の呼びかけで創設された。バチカンの庭園にルルドの洞窟の模型が造られたときいたペルー師は、五島の信徒に協力を呼びかけ、信徒が各地から美しい石を運び込み、奉仕によって1899年に完成。設置されたルルドの聖母像はペルー師が故国フランスから取り寄せ、またフランスルルドの水も、井持浦ルルドに注ぎ入れられた。日本で初めてのルルドで、東洋でも初、世界的にみても最も早く造られたものの中に入ると言われている▼ペルー師の日本での宣教は、自分の故国で起こったマリア様のご出現の出来事に励まされながらの宣教だったのかもしれない▼100年祭のときに島本大司教は、「日本の教会の歴史をマリア様なしに語ることはできません」と述べた。1549年8月15日、聖母被昇天の日にフランシスコ・ザビエルは日本に到着し、イエス様の福音がもたらされた。キリシタン弾圧の最中も、信仰を守り通すことができたのは、マリア様の取り次ぎがあってこそだ。日本の信徒発見の出来事で、「サンタ・マリアのご像はどこ？」と発した浦上の信者の言葉は、その象徴的な言葉だ。この節目に、あらためてマリア様のご保護を思う。（馬）

聖香油ミサ（司祭の日）
わたしたちの使命に燃えて

3月26日（火）10時30分から浦上司教座聖堂で中村倫明大司教の主司式、髙見三明名誉大司教と80人余の司祭団の共同司式により聖香油ミサが行われた。ミサには子どもたちを含め多くの信徒らが参加し、共に祈りをささげた。ミサの中では司祭の約束の更新、病者のための油と洗礼志願者のための油の祝福、聖香油の聖別があり、ミサの終わりには今年司祭叙階の節目（60周年と25周年）を迎えた司祭たちの祝賀式も行われた。祭司職の制定が記念される聖木曜日の聖香油のミサは、この日に教役者と信者が司教と共に集まることが困難な場合には、復活祭に近い他の日を選ぶことができ（『ミサ典礼書』）、長崎教区では火曜日に行われている。中村倫明大司教による当日の説教を、紙面を通じて分かち合いたい。

ミサ説教

中村 倫明 大司教

本日は、新約の祭司職が制定されたことをお祝いする司祭の日ですので、兄弟である神父様方の方を向いて話をさせてください。信徒の皆さまがたには、背を向けることをおゆるしください。

助祭様方、神父様方、いつも宣教司牧にご尽力くださり感謝申し上げます。特に、本日は、今年、司祭叙階ダイヤモンドをお迎えになられます小島 栄神父様、萩原榮三郎神父様、山内春治神父様、おめでとうございます。そのご家族の皆さま、小教区の皆さま、おめでとうございます。それから、銀祝をお迎えになられます熊川幸徳神父様、大瀬良直人神父様、濵﨑 敦神父様、おめでとうございます。そのご家族の皆さま、小教区の皆さま、おめでとうございます。そして、先日、助祭叙階を受けられました洪燦基（ホンチャンキ）助祭様、おめでとうございます。

来月、わたしたち日本の教会は、アド・リミナ（使徒座公式訪問）において各教区の報告をしなければならないということで、長崎教区のここ数年の信徒数の推移を調べてもらいました。

２０１４年に６万２２０６人だったのが、少しずつ減っていき、２０１９年には６万人を切ります。５万９６４２人でした。そして、一昨年の２０２２年は５万７６９２人、そして、昨年２０２３年はさらに１５００人減り、５万６１９４人と少なくなっています。

これまでの長崎教区の歴史の中でピークだったのは１９６３年で、８万３５０人。この時１回限りの８万人でした。それ以後、前年よりもいくらか増えるという年も数回はありましたが、ほとんど減少してきました。

もちろん、長崎県民・市民の数も減少しています。少子化の問題もあります。それに伴う幼児洗礼の減少もあるでしょう。また全世界の教会も含め、教会の不祥事や聖職者による虐待問題もあるでしょう。わたしたち司祭の言葉遣いや不遜な態度にも、ご批判を頂くこともあります。

信徒の皆さま方にお詫び申し上げ、ゆるしを願います。そして、こんなわたしたちにも回心の機会を頂きながら、それでも、わたしたちは確認しなければならないことがあります。それは、それでも、神さまがいなくなったわけではないということ。そして、教会の使命は福音宣教であるということには間違いはないということです。

ですから、これからもけっしてあきらめないで、希望を失うことなく、宣教司牧に力を注いでいきたいと思います。何よりも、わたしたちをどうしても救いたいと望まれる神さまは、わたしたちの救いを絶対にあきらめることはありません。だったら、その神の代理者であるこのわたしたちがあきらめることがあるとすれば、それはとってもおかしなことです。どうぞ、いま一度、み言葉を伝え、人々に奉仕するというわたしたちの使命に燃えていきましょう。

奉仕にはいろんな奉仕が世の中にはあります。清掃活動・福祉活動・自然保護活動・さまざまなボランティア活動など、いろんな奉仕があります。それらにもちゃんと協力しつながりながらも、わたしたちがどうしてもしなければならない第一の、あるいは、すべての奉仕がその奉仕へと結びついていなければならない、わたしたち司祭が行わなければならない奉仕とは、人々を救うという奉仕です。

人々が天の国に行くために奉仕するということ、これがわたしたち司祭の一番の奉仕です。

3月10日に、佐世保地区で佐世保出身の廣田 学神学生の祭壇奉仕者選任式がありました。その式の最後に、出身教会の主任神父様、村川神父様から感謝のあいさつがあり、こうお話しをなされたんです。

「何のために司祭になるのか、お金とか名誉とかのためではない。奉仕するためです。人と神さまに奉仕していくためです」

3月20日の助祭叙階式での説教を担当してくださった浦上教会主任司祭、山村神父様も同じことを話されました。

「何のために叙階されるのか。それは仕えるためです。特権意識を持ったり、あの人よりもましだとか、偉いとかいうことではありません」

神父様方がおっしゃる通りです。多くの人に本物の神さまと出会ってもらうため、イエスさまと出会ってもらうためにです。人々に天国へと行ってもらいたいから。人々が救われ、しあわせになり、人々に「よかった」と喜んでもらうためです。

「みこころが天に行われるとおり地にも行われますように」そのために奉仕していくんです。

ですから、神父様方にお願いがあります。ご健康にはご留意ください。わたしも他人に言えることではありませんが、お身体の健康管理をおろそかになさらないでください。自炊の神父様方が多いと思います。偏食、食べ過ぎ、飲み過ぎ、孤独食などには注意をお払いくださいますように。司祭の数は減少傾向にあります。元気・長生き・生涯現役をお願いいたします。

実は、今日この日に「おめでとう」とお祝いしたかったもう一人の神父様がおられます。今から13年前の２０１１年4月25日に、39歳でこの世を去ったヨセフ松永正勝神父様です。正勝神父様は、ご存命であれば、本日の熊川神父様、大瀬良神父様と同じく銀祝（司祭叙階25周年）を迎える予定でした。

正勝神父様、正（マサ）神父様は、大瀬戸におられた冬の日、雪が積もり車が走れない時、大瀬戸から歩いて大司教館にやってきて、兄弟司祭との交わりを大切にしてくれました。

司祭研修会などの時には、一番前の方の席に座ってあずかっていました。わたしはそのマサ神父様を盾にして、その後ろでした。髙見大司教様の司教叙階の祝賀会での出し物の依頼が、事務局から、どうしてか、わたしとマサ神父様二人に声がかかりました。二人ともコスチューム姿で登場しました。

マサ神父様の最後の赴任地は、太田尾教会でした。わたしはとっても嬉しかったです。小さな田舎の教会ですが、それでも笑顔で喜んで人々の中で働いてくださっていました。どんなに暑い日でも、黒のスータンを着ていました。その太田尾教会にはたった1年だけ、司祭生活は12年でした。長崎教区司祭、正勝神父様のことも思いながら今日のお祝いもできたらと思います。

どうぞ神父様方、お身体にはご留意ください。お身体だけではありません。心と霊的命の健康管理にもご留意ください。孤独になりませんように。兄弟同士での節度ある交わりを大切になされますように。何よりも、何よりも、神さまがともにいてくださることを、お互いに忘れることがありませんように。

最後になりましたが、修道者や信徒の皆さま方、いつもこのわたしたちを支え、わたしたちのために祈りをささげてくださいますことに感謝申し上げます。そして、これからもこのわたしたちのこと、あきらめないで、わたしたちとともに福音宣教に力を注いでくださいますようにお願いいたします。

本日は、祭司職制定の記念日ではありますが、洗礼を受けたわたしたちすべての信者は、共通祭司職という使命を受けています。わたしたちみんなが頂いている祭司職の使命をそれぞれの場所において、それぞれの立場において、しっかり果たしていくことができますように、このミサの中でも祈ってまいりましょう。

＊右の写真は、司祭叙階の節目を迎えお祝いの花束を受けた司祭たち。額入りの写真の人物は、25年前に司祭に叙階された故松永正勝神父。

内科・循環器科
医療法人 平田クリニック
院長　ヨゼフ　平田哲也
通所リハビリテーション
上野町グループホーム・サービス付き高齢者住宅
長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ドミニコ　溝口悦雄
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

WYD（ワールドユースデー）報告の分かち合い

教区青年黙想会 約40人集まる

3月10日(日)、カトリックセンターを会場に教区青年黙想会を実施しました。今回の黙想会は昨年夏のワールドユースデー（WYD）リスボン大会の報告会も兼ねており、WYD参加青年がリーダーとなって、中村倫明大司教様と39人の青年とで分かち合いました。

午前の部は、大会報告とWYDプログラム体験、午後の部はグループで分かち合いながら、それぞれの決意を1枚の台紙に貼り付け、感謝のミサで奉納しました。黙想会参加者からは「ワールドユースデーという信仰を通して世界中の青年と関われる大会を知ることができてよかった」などWYDに興味を持った方もいれば、「長崎の青年が集まり、交流や祈りを共にすることができてうれしい」など教区青年の集まりを喜ぶ声もありました。

この黙想会のためにお手伝いくださった方々、各主任神父様、青年担当者へ感謝のうちに、今後とも青年司牧へのご協力をよろしくお願いいたします。

青少年委員会 川端志範

米国から平和運動のメンバー来崎

被爆者団体に謝罪声明

3月12日(火)～17日(日)、国際カトリック平和運動、パックス・クリスティのメンバーが来崎した。1945年に創設された同団体は、50カ国以上の120の会員組織から成る運動で、全世界で平和、人権の尊重、正義と和解を促進するため、人権、非暴力、核兵器廃絶などのための活動を行っている。

今回は米国支部のメンバー11人が原爆投下について謝罪をするため来日し、京都と広島への訪問に続き、長崎で被爆者団体の代表者と懇談し、謝罪声明を行った。浦上教会でも共有された謝罪文では「個人的に正しい関係を築き、被爆地・長崎の方々に赦しを求めたい」と和解に向けた対話を呼び掛けた。また、日本二十六聖人記念館、聖コルベ記念館、出津などを訪れ、殉教と宣教の歴史に触れた。

巡礼団の団長であり共同代表のボブ・クッシング氏は、中村倫明大司教、髙見三明名誉大司教に感謝するとともに、「禁令下と被爆の中、守ってきた英雄的な信仰に驚きました。長崎は、私たちにとって信仰と平和のインスピレーションであり続けるでしょう」と語った。巡礼団は、昨年長崎と広島の両教区が米国2教区（サンタフェ大司教区とシアトル大司教区）と共同で発表した「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」に賛同する形で、核廃絶に向けた活動を継続していく予定。

写真は、㊤西坂を訪れ日本二十六聖人記念館館長のデ・ルカ・レンゾ師から説明を受ける巡礼団と、㊦被災協で行われた被爆者団体との交流での1枚。中村大司教、髙見名誉大司教も参加した。

入学おめでとう

今春、長崎教区内にある神学校・志願院に入学した人は1人。新入生、在校生の召命の歩みを、今後も引き続き祈りましょう。

◆聖コルベ志願院高校1年
宮下　暢（のぶ）
（大分教区・南宮崎）

人事異動・任命

（　）は前任地、〔　〕は備考など

▼派遣司祭〔4月1日付〕
竹内　英次師　大江、崎津、本渡主任（二日市主任）
岩下　和樹師　糸島、茶山主任兼任　（茶山主任）
中尾　直通師　今村、本郷協力
〔福岡カトリック神学院〕

▼レデンプトール会〔4月1日付〕
アンジェリーノ・ノヴェントス・ロワ師
愛宕助任　（インドネシア管区）

2023年度 第3回 司祭評議会

3月19日（火）10時30分から長崎大司教館で、2023年度第3回司祭評議会が行われた。主な審議事項は次の通り。

①教区組織における「活動組織の運用指針」改定案が承認された。教区シノドス担当司祭と委員長の任期は3年とし、再任の場合は6年を超えないと定められた。信仰養成部と福音化推進部の廃止、教区シノドス担当司祭および同副担当司祭の任命に伴う改定である。

②諸外国からの巡礼団の一定額「献金」の廃止。これまでミサ参加者から一人500円の一定額を献金してもらっていた制度を廃止し、自由献金とする。また国内からの巡礼団対応は、教区本部から徐々に小教区に変更していく。

③長崎教区において司祭同士の連絡手段として利用しているビジネスチャットツールの有料プランへの移行。これまで無料で試用してきたが、今年10月から有料となるため、法人契約とし、デジタル推進のために教区の予算から拠出する。教区本部職員の負担軽減と効率化、および教区外に派遣されている司祭も含めた全司祭への迅速な情報共有のための手段である。全司祭の加入を原則とする。

2023年度 第4回 教区顧問会

3月19日（火）13時から長崎大司教館で、司祭評議会に続き、2023年度第4回教区顧問会が行われた。主な報告、審議事項は次の通り。

①2024年度の年間運用計画案と収支予算書案が承認された。

②長崎コレジオ「生活の心得」の再議。今春の長崎コレジオ開校にあたり、長崎コレジオの養成指針・養成課程・内規を含めた「生活の心得」案が提出された。継続して検討する。

③「神学生奨学金規程」案承認。長崎コレジオの神学生の奨学金に関する規程の改定案が承認された。

④カトリックセンター土地建物活用実行委員会設立。昨年6月、教区本部事務局と法人会計事務室を大司教館に移転することが承認された。これに基づき「カトリックセンター土地建物活用実行委員会規則」案と同実行委員会設立が承認され、6月頃からの会合開始を見込んでいる。

⑤「子どもと女性の人権相談室規程」案が承認された。また相談室窓口と相談員として、シスター成願めぐみ氏（純心）、藤原謙司氏と出口弥生氏を雇用し、4月中に中町信徒会館2階に開設する予定。

委員会からの呼びかけ

毎月9日に唱えよう「平和を求める祈り」

教区平和推進委員会（委員長・鍋内正志師）は3月17日、同委員会のウェブページを更新し、毎月9日に「平和を求める祈り」を唱えようと呼びかけた。

「核兵器廃絶の実現を願い、わたしたちが平和のために行動する力をいただくために、そして、わたしたちの行動の『座標軸』を繰り返し確認するためにも、毎月9日に、『平和を求める祈り』を唱えることを呼びかけます」としている。

2020年
〝被爆75年から5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

能登・被災地支援のための寄付わたす

子どもたち大司教館訪問

3月13日（水）10時、この春の卒園児を含む、黒崎聖母保育園（眞浦より子園長、長崎市上黒崎町）の子どもたち16人が職員らに引率されて大司教館を訪れ、中村倫明大司教に能登半島地震被災地のための寄付金を渡した。寄付金はカリタスジャパンを通して被災地支援に使われる（3月25日送金済み）。

子どもたちは「わたしたちのまごころを使ってください。よろしくお願いします」と声をそろえ、代表の子ども2人が中村大司教に包みを渡した。大司教は「ありがとうございます。お渡しします」と受け取り、その後、「今年卒園した人は？」「園ではどんなことを学びましたか？」と言葉をかけ、皆元気に手をあげたり、口々に答えたりした。子どもたちは大司教にお歌のプレゼントをし、大司教は子どもたちを祝福した。

さらに子どもたちは、ロビーに掲げられている『日本二十六聖人殉教図』に興味を示し、絵図の前に立って、描かれている人物の人数を皆で数えたり、大司教のお話を聞いたりした。その後バスに乗り込み、元気に手を振って大司教館を後にした。

能登半島地震　募金受付

■教会内支援（教会の修復や被災された信徒の方への見舞金など）のため
郵便振替　00810-5-50605
加入者名　カトリック名古屋教区
＊通信欄に「のと地震」と明記してください。「NOTO」あるいは「のと」だけでも可。
※お寄せいただいた救援金は、公益性の高い他の活動（被災地域全般）についても使わせていただくことがあります。

■被災地での支援活動ならびに広く被災された方々への支援関連活動のため
郵便振替　00170-5-95979
加入者名　宗教法人カトリック中央協議会　カリタスジャパン
＊通信欄に「能登地震」と明記してください。

みつあみの会

2024年度 一日の祈りの集い

コロナ感染防止のための休止を経て昨年度に再開した「一日の祈りの集い」が、今年度も行われる。集いを主催する「みつあみの会」は、「神と静かに過ごす時を持ちたい方はぜひご参加ください。どなたでも参加できます」と呼びかけている。

【申し込み方法】
開催日の1週間前までに下記①～③のいずれかでお申し込みください。申込書が必要な方はお送りいたします。各教会にもポスターと申込書を配付いたします。

（担当）純心聖母会 Sr.山田房恵

①郵送
〒852-8142
長崎市三ツ山町415
②ファックス
095-843-7570
③メール
norasho@outlook.jp

定員15人。参加費500円。開催教会（会場）は次の通り。

2024年
・5月25日(土)本河内教会
・6月6日(木)三浦町教会
・7月6日(土)福江教会
・9月14日(土)城山教会
・10月5日(土)本原教会
・11月4日(月)田平教会
2025年
・1月14日(火)滑石教会

短信

〈アド・リミナ〉
日本の司教団は4月8日から13日まで、アド・リミナのためにローマを訪問した（次号掲載予定）。

ぐるぐる園

▼広島教区・津和野「乙女峠まつり」　5月2日(木)19時、津和野教会隣り幼花園ホールで前夜祭。5月3日(金)10時15分、津和野教会～乙女峠へ聖母行列。12時から野外ミサ。

▼第144回クルシリヨ　5月3日(金)～6日(月)、お告げのマリア修道会本部。

▼井持浦ルルド祭125周年　5月12日(日)13時、井持浦教会。

▼雲仙殉教祭　5月19日(日)、雲仙メモリアルホール。13時開会、13時30分ミサ、15時巡礼。

カトリックセンター 今に続くこれまでの歩み見つめて①

1969 1970 1971 〜 2024…

今年発行した本紙『カトリック教報』2月号1面に、「教区本部事務局、法人会計事務室など2025年1月に大司教館へ移転予定」の記事が掲載された。既報の通り、これら事務局などが所在を置くカトリックセンターに関しては、かねてより長崎教区施設統廃合検討チームが中心となって広く意見を公募するなどして検討が重ねられ、最終的に「大司教館への移転」が決定した次第である。このお知らせの後、読者の方々から「移転の準備は大変だろう」「移転後の各部署の連絡先は」「センター建物はどうなるのか」といった声が寄せられた。よりよい現場環境となるよう目指す中で期待と不安が入り混じるが、この機会に、今に続くカトリックセンターのこれまでの歩みを、『教報』の過去の記事から見つめていきたい。（広報）

名実ともにカトリック・センター

建設を決定

1969（昭和44）年7月号に、「カトリックセンターを建設 教区顧問会で決める」との見出しで次のような記事がある。

「6月18日の教区顧問会はカトリックセンターを新たに建設することを正式に決定した。かねて教区の事情を検討しておられた里脇大司教様は、すでに懸案となっている大司教館や司祭養老院の建設に先立って、教区諸活動の中枢となるセンター建設の必要を認め、顧問会にはかられたわけであるが、顧問会は一致してこの計画に賛意を表した。その結果、近く建設委員会を結成して具体的な検討に入るはずである」

時代的要請にこたえて

その翌年1970年には、建設計画が具体化されてきたこと

▲こちらは1971年11月号『カトリック教報』の「祝別・落成式」特集ページに掲載された写真の一つ。センター周辺にはカトリックに関連する施設が多くあり、「名実ともにカトリック・センター」と添えられた言葉の通り、中央に位置する環境に恵まれた。

が触れられ、実現のために力を尽くすよう記されている。

「カトリックセンターの必要性とその役割の重大さについての認識が急速に高まってきた今日の時代的要請にこたえて、教区でもセンター建設計画が具体化されてきた。（中略）

この種の施設は、現代の宣教々会の緊急な要請として日本でも数教区にすでに設立されているが、長崎教区でも数年前から有志の間にその声が高かったのである。

いま里脇大司教のご決断によってその計画が具体化されたことは何よりもよろこばしいことであるが、もっとも大切なことは、その実現のために、経済的、精神的に聖職者たると信徒たるとを問わず、また、社会的地位や職業の如何によらず、貧富を論ぜず、各人の可能性に応じて、心を一つにし、全力を傾けて建設にまい進する覚悟を固むべきであろう」（1970年5月号）

その後、里脇浅次郎大司教自らが親しく筆をとってつくったという70年5月5日付「建設趣意書」の内容が伝えられた（同6月号）。

建設趣意書〔抜粋〕

「今日は、社会の平和的発展のため、市民の対話と協力が何より必要と考えられる時代であります。使徒的活動への一般信徒の参加が重要視されてきた現在の教会においても、信徒、修道者、聖職者が一体となって実りある活動を進めるためには、先ず、皆が互いに胸襟を開いて話し合い、啓発し合う必要があります。

教区では、かつて袋町（現在の栄町）のカトリックセンターが、この種の話し合いの場として大きな役割を果たしましたが、現代の信徒使徒の養成、研究、或は活動の場として十分であったとは言えません。それで新たに計画されたセンターには、教区事務所、各種団体事務所、会議室、図書室、研修室、講堂、宿泊室、隠退司祭居室等が設けられることになっています」

信徒たちの熱意たかまる

そのうちに建設のための募金計画も具体化し、各小教区それぞれに問題を抱えながらも「時代の要請」という必要にこたえ、ほとんどの小教区が主任司祭、信徒の一致した善意によって、「8月から積み立てを始めることにしたようである」と記されている。

「平戸・北松地区（現在の平戸地区）では6月25日、顧問連合会をひらき、7名の地区司祭と16名の小教区代表顧問が平戸教会に集まって2時間にわたる熱心な協議を続け、大司教様のご意志にそって協力することを申し合わせた。

三ツ山小教区では、小教区全信徒が積極的な熱意を示して積み立てを開始したほか、子供会は、土曜日のケイコのあと先二つ食べるアイスクリームを一つにして10円を建設資金に積み立てることを申し合わせた。青年会は毎月一人50円を積み立てることにしており、婦人会は廃品回収をしてセンター建設に協力している。

浦上小教区では7月19日、募金委員会を発足、8月から各戸の積み立てを開始することにしたほか、一時金で献金する人は、今年中に完納するように申し合わせた」（1970年8月号）

時代に即した対応としてセンターの建設が必然であったと同時に、教区全体が同じ目的のために一丸となっていたことが見て取れる。

＊引用箇所は一部編集済み。

グレゴリオ 竹谷 基（もとい） 神父
（神言修道会）

3月23日逝去。69歳。愛知県生まれ。1977年初誓願、83年終生誓願。84年3月17日司祭叙階。84年新潟教区・秋田教会助任。86年西町助任。89年名古屋教区・南山助任、90年福信館専従スタッフ、2002年多治見助任、06年平針主任、07年東海主任、14年多治見主任、17年から23年まで半田主任を務めた。

葬儀ミサ・告別式は3月25日、多治見教会で行われた。

ファライダ 田島フイ修道女
（純心聖母会）

3月24日逝去。81歳。佐世保市生まれ、神崎教会出身。1964年初誓願、73年終生誓願宣立。

初誓願後から東京純心女子短期大学で美術助手として17年間奉職。その後、87年鹿児島修道院に派遣、鹿児島純心女子学園の寄宿舎の舎監としての19年を生徒たちと共に過ごし、優しく愉快な人柄は卒業生や保護者に慕われた。2007年高齢者の介護のため、長崎のロザリオの聖母修道院へ派遣。世話好きで誰にでも心と手を差し伸べる行動力は重宝された。18年ベタニア修道院の高齢者の世話役として派遣。今年4月にマダレナ修道院に派遣される予定だったが体調を崩し、3月22日に聖フランシスコ病院に入院。23日危篤状態になり、24日に御父のみもとに召された。

マリア・カリタス 福田トシ子修道女
（純心聖母会）

3月24日逝去。78歳。平戸市生まれ、紐差教会出身。1967年初誓願、77年終生誓願宣立。

初誓願後、純心学園の栄養士として寮生や修道院のシスターたちの栄養管理に努めた。78年から31年間、川内純心女子高等学校の家庭科の教諭として勤め、その間、がんを患ったが元気を取り戻した。優しい人柄は、生徒や卒業生、保護者に信頼され慕われた。2006年から修道院院長や中高志願生の養成担当者、18年からは佐世保修道院に派遣。初めての教会奉仕ではカテキスタを務め子どもたちと関わり、福音宣教に力を注いだ。昨年11月に末期がんと診断。治療を始めたが、その後、ホスピスに移った。3月下旬、本人の切なる願いで修道院に帰り、24日の朝、御父のみもとに召された。

感謝

―香典返し―

長崎大司教区
●塩﨑美穂子様（滑石）
故イグナチオ
塩﨑弘明様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

クリスマス募金 支援報告

教区評議会は、自然災害による被災者、国内外の生活困窮者への支援を目的として、昨年12月1日から今年1月14日にかけて「クリスマス愛の募金」の協力を呼びかけた。募金は480万1808円（1月19日現在）集まり、同評議会は前年度の繰越金52万1392円と合わせて次の活動団体に送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎ダルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼東京山友会 50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼ドリームカムホーム青少年自立援助 50万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 20万円▼佐世保隣人愛の会 10万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 10万円▼モナの会 10万円▼大村外国人を支援する会 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼外国人のための医療相談会 10万円▼コンゴ平和学園 50万円。

1月20日以降に寄せられた募金は次年度に繰り越される。

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

2024年4月から相続登記の義務化スタート
これまでの相続も対象
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 5月号
「カトリック信徒傷害見舞金制度」のご紹介
カリスでは、教会の皆様を対象に「カトリック信徒傷害見舞金制度」をご案内しております。教会には、信徒の皆様は勿論、一般の施設利用者、訪問者など多くの方たちが訪れます。本制度は、教会の福音宣教活動を支援するため、教会施設内で生じた事故により、ケガをした教会施設利用者（当該教会の神父・助祭、有給の教会事務職員、清掃・修繕業者等を除く）への見舞金等をお支払いする制度です。
＜保険金のお支払い事例＞
•廊下の段差につまずいて転倒し、大腿骨を骨折した。
•階段でバランスを崩して踊り場に転落し、手足を打撲した。
•扉のガラスに気づかずに衝突し、頭部を打撲した。
•駐車場を掃除中に、手首をスズメバチに刺された。
＜見舞金の対象となる教会施設内で行う行事の例＞
•ミサ・典礼：ミサ、洗礼式、堅信式、結婚式、叙階式、復活祭 等
•例会：黙想会、聖書研究会、祈りの会 等
•行事・催事：バザー、祝賀会、歓送迎会、研修会、クリスマス会、七五三、成人式、セミナー、ボーイ&ガールスカウト活動 等
＜お支払いする見舞金の種類＞
①被災者対応費用
②被災者傷害見舞費用および傷害見舞費用
小教区単位でご加入いただきます。現在、約500の教会が加入されています。本制度は毎年6月1日補償開始（中途加入も可能）です。5月に全ての教会に制度のご案内をお送りしております。
※本ご案内は「レジャー・サービス施設費用保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、パンフレットおよび各保険の「重要事項説明書」をよくお読みください。
私たちが、お守りします。　大澤阿紀子　毛利玲子　小松修三　川口 薫神父（顧問）　服部秀昭

カトリック共済システム 有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索
24TC-000064（2024年3月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください